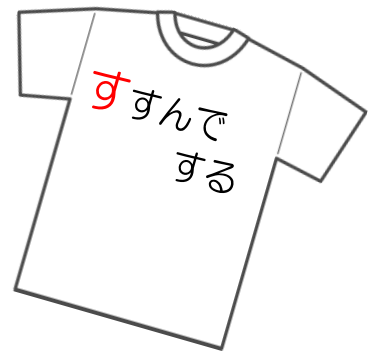




令和3年度

京都市立岩倉北小学校 研究発表会

学級活動(3)ア・イ・ウ



令和3年12月8日(水)
京都市立岩倉北小学校

1 題材 「なりたい自分にパワーアップ！」
—冬休みにむけてスマイルダッシュだ！—

(ア) 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、素直で前向きに様々な活動に取り組むことができる。また、友達同士の関わり合いもよく、児童から進んで友達の「いいところ」を見つけようとする姿が見られる。

しかし、自分の意見を出しにくかったり、自信のないことには挑戦しなかったりする児童もいる。そこで、休憩時間などに児童の明るい話が聞ける場を設定し、話しやすい雰囲気を作ってきた。また、全ての学習活動の中で、多様な意見があることの大切さに気づかせたり、グループ活動やペア活動などの話し合いを多く取り入れたりすることで、一人一人が意見を出し合う場づくりをすすめてきた。

そして、自分のよさ・可能性に気づかせ、自信を持たせるために、行事・学期ごとには振り返りシートを作成し、できるようになったことや頑張ったことを書きとめ、それらを友達と交流し、新たな自分の可能性を見いだしたり、自分や友達のよさを認めたりできるようにしてきた。さらに、振り返りシートだけではなく、交流した他学年にもコメントを書いたり、その時に感じた素直な気持ちを書きとめたりすることで、上級生に対する憧れをもつことができ、下級生には、次年度の姿を示すことができた。また、保護者にもコメントを書いてもらい次への励みになるようにした。児童は、2学期になり、学習面でも生活面でも自分に力が付いてきたことを感じている。

今回の授業では、3年生との交流を通して、3年生の「すごい」ところをつかみ、今の自分たちと比べて「すごい」と思えるところをさがり、なりたい3年生にむけて、さらにパワーアップするために自分の可能性を信じ「やってみたい」ことを見つけてほしいと考える。

(2) 題材設定の理由

本題材では、目標設定や意思決定を通して自己への理解を深め、なりたい自分に向けて主体的に活動しようとする態度を養うことをねらいとする。これまで、1学期から行っている「いいところ見つけ」の取組や、生活科の「広がれ わたし」の単元で、今までの自分を振り返り、自己の成長を考えることで、自分のよさや現状を知る活動をしてきた。また、一週間のめあてを自分で考え、それを踏まえてその週を振り返り、次のめあてにつなげるという活動を通して、児童が「自分」と向き合い、自分に合った目標を立て、目標の達成を目指して主体的に行動しようとする態度を養ってきた。

これらの活動の積み重ねを生かして、本時では、3年生との交流を通して、自分がなりたい姿を明確化し、なりたい姿に近づくために、どのようなことに取り組んでいくのかを考え、交流することで意思決定する。この活動は、今後に向けての姿や心構えに対して具体的なイメージをもたせ、よりよい自分になるために取り組んでいくことを意思決定する力を高め、自分の将来に向けて意欲をもって生活していこうとする態度を養う上で大切だと考える。

そして、冬休みまでの時間を大切に過ごし、3学期には、3年生になる前の準備期間として、来年度の3年生の生活が素晴らしいものになるように「今からやってみよう」と思うことを意思決定できるようにしたい。

3 第1学年及び第2学年の評価規準「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」

観点	よりよい生活を築くための知識・理解	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの課題を知り、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生活するために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて進んで行動しようとしている。

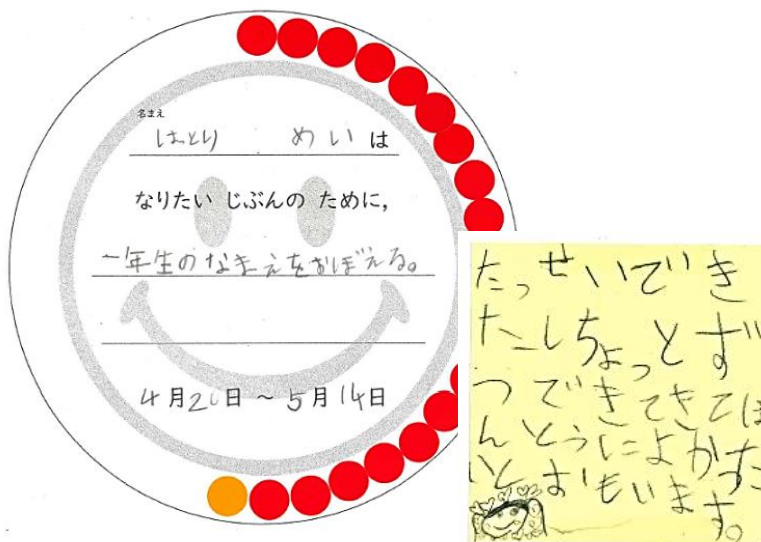
4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
<ul style="list-style-type: none"> ・1学期 「なりたい自分になるために、はじめの一步を踏み出そう」 ・生活科：広がれわたし ・いいところ見つけ ・毎週の振り返り ・なりたい自分について考えるアンケート ・3年生との交流（授業を見る等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科で今までの自分を振り返る活動や、3年生と交流する活動を通して、自分のなりたい姿をとらせることができるようにする。 	◎毎週の振り返りや3年生との交流を通して、自己への理解を深め、3年生へのあこがれをもつことができる。【主体的態度】〈アンケート、振り返りシート〉

◎1学期 学活3（ア）

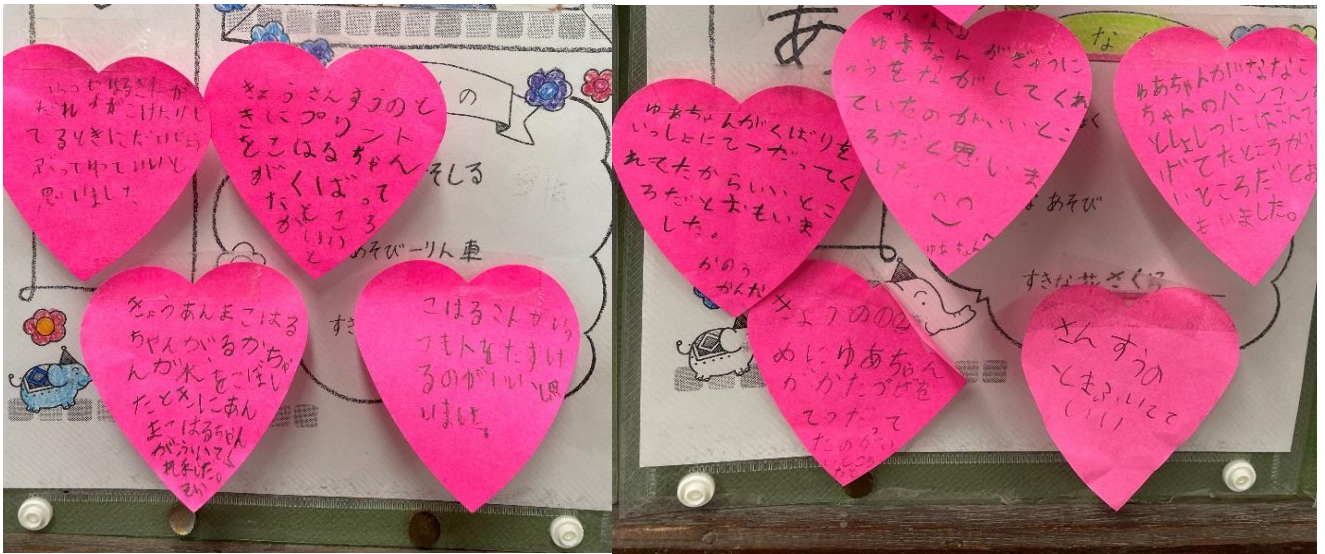
「なりたい自分になるために、はじめの一步をふみだそう」

この活動では、4月にキャリアパスポートに記入したなりたい自分になるために、やってみたいことを決め、約14日間取り組んだ。シールを貼って、毎日の振り返りを可視化し、最後には、めあてに対する振り返りを行い、児童は、自分で立てた目標を達成した喜びや、これからの生活につなげたいというような前向きな気持ちを書きとめた。



◎いいところ見つけ

毎日の帰りの会で、その日の日直のいいところを発表したり、それ以外に見つきたいいいところを発表したりする活動を行い、児童が進んで、お互いのいいところを見つけようとする姿勢が見られるようになった。



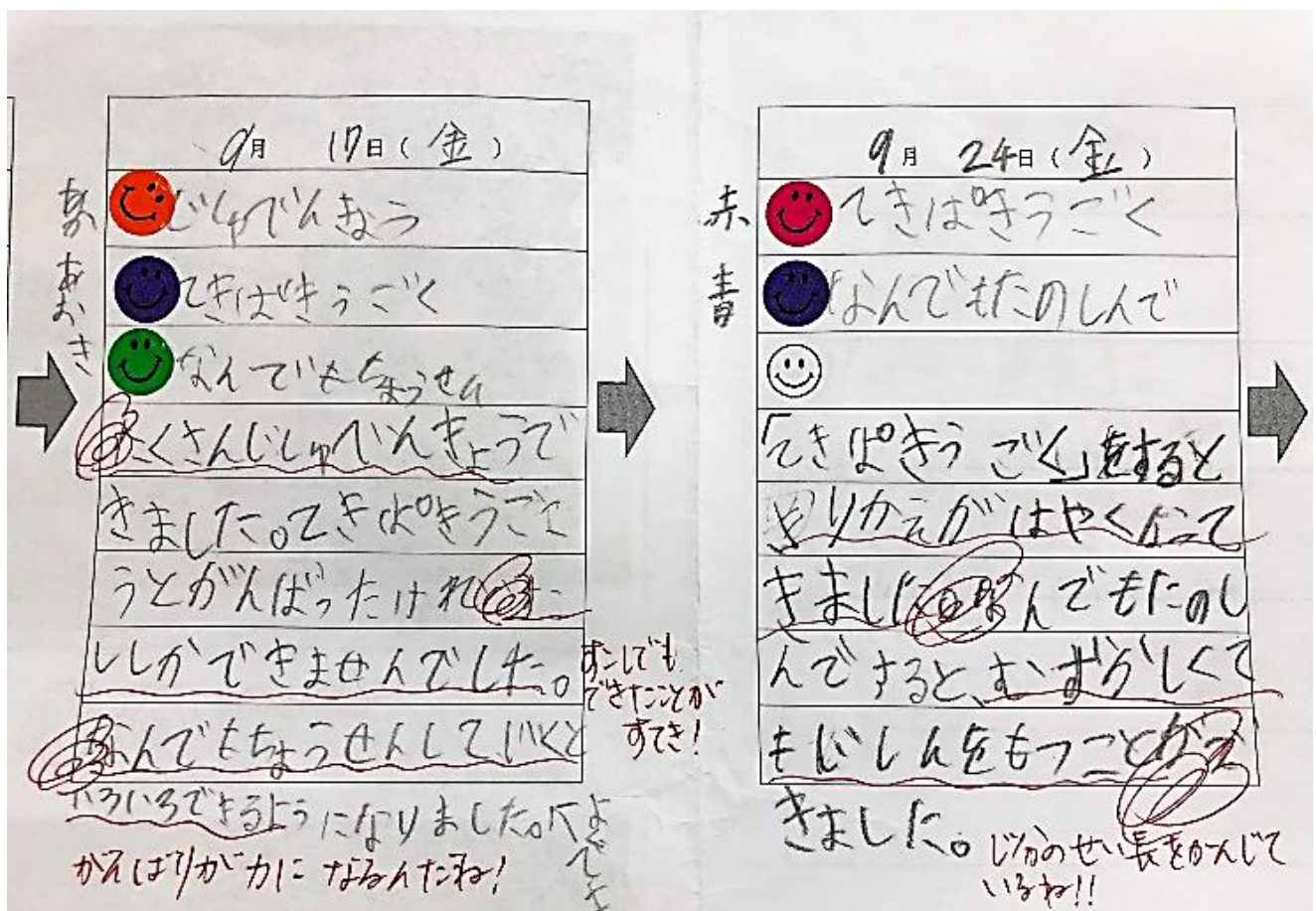
◎3年生との交流

1学期には、クイズショーに参加し、2学期には、3年生が作ってくれた巨大迷路で遊び、運動会では、3・4年生の団体演技を見て、「自分たちもこんな風になりたい」と強いあこがれを抱くことができた。また、普段の授業を見学し、3年生にあこがれを持つことで、2年生としての「なりたい姿」を明確にできるようになってきた。



◎毎週のふりかえり

2学期は、児童が「自分」と向き合うことで、自分に合った目標を立て、目標の達成を目指して主体的に行動しようとする態度を養うために、1週間ごとに自分のめあてを決め、金曜日にふり返りを行った。月ごとにテーマを決めて、めあてを考えた。9月は取組に慣れること、10月は、クラス目標を土台に、11月は、2学期の自分のめあてを再認識して、そして、12月は4月に決めた「なりたい自分」を意識しためあてを立てた。初めは、「できた／できなかった」「うれしかった」という定型句のふり返りが多かったが、担任が目標に対する丁寧なふりかえりを紹介して価値づけたり、友達同士で振り返りカードを読み合ったりする中で、次第に、1週間のめあてに対して、どんなことをしたかや、わかったこと、できたこと、どんな気持ちかなどを書きとめるができるようになり、少しずつ視点を広げたり、深めたりしている様子がわかる。



5 本時のねらい

なりたい3年生になるために、やってみたい取り組みを意思決定することができる。

【思考力・判断力・表現力】

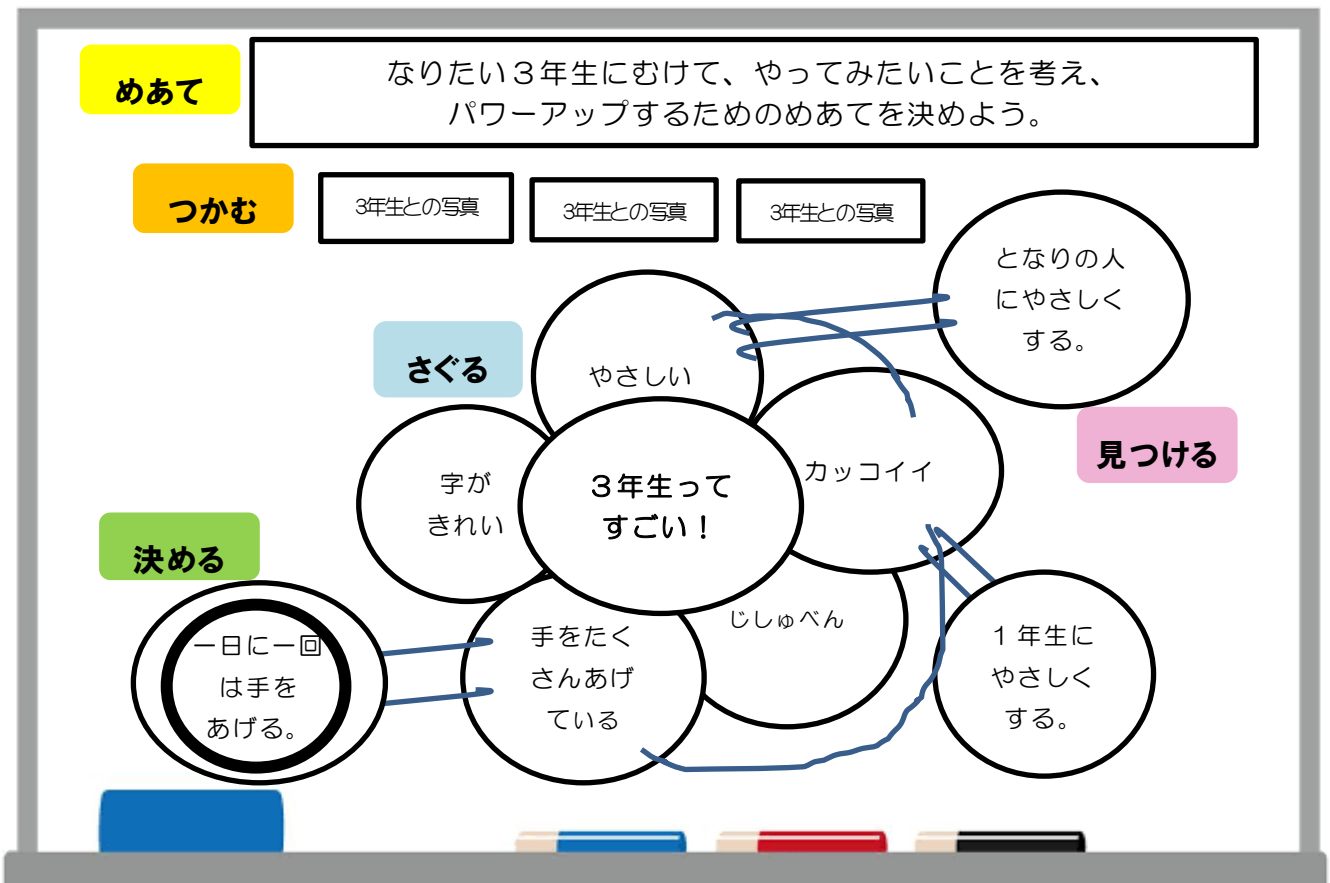
6 本時の展開

	児童の活動	○指導上の留意	資料	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
導入 つかむ ⑩	・3年生との交流をふりかえる。	○今の自分と比べて3年生のすごさを実感できるようにこれまでの3年生との交流を振り返る。	・3年生との交流の様子ができる写真	
展開 わかる ⑩	・3年生との交流を通して、感じたことを踏まえて、3年生のすごいところをさぐる。	○3年生との交流を通して、感じたことやそのときの気持ちを思い出し、3年生のすごいところを見つけることができるようにする。	・ワークシート	【思考力・判断力・表現力等】 ◎3年生のすごいところに気づき、ワークシートに記入できている。 【主体的態度】 〈観察・ワークシート〉
なりたい3年生にむけてやってみたいことを考えて、 パワーアップするためのめあてを決めよう。				
展開 見つける ⑮	・なりたい3年生に近づくためにやってみたいことを考え、交流する。	○メーჯマップを使用して、なりたい3年生に近づくために自分がやってみたいことを考えられるようにする。 ○迷っている子が他の児童と話すことで自分のやってみたいことが見つかるようにする。		◎なりたい3年生になるための具体的な取り組みを考え、ワークシートに記入し、交流することができている。【主体的態度】 〈観察・ワークシート〉
終末 決める ⑩	・やってみたいことの中から、まずチャレンジしたいことを決める。	○ここまで自分で考えたことや交流を通して、まずチャレンジしてみたいことを決め、視覚的にわかるようにする。		◎交流したことを生かして、自分が実践することを意思決定している。【思考・判断・表現】 〈観察・ワークシート〉

7 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
○意思決定した取組について、冬休みまでをパワーアップ期間とし、毎日振り返る。	○意思決定した具体的な行動への意欲を高めさせるために、日々の様子を観察し、意識的に取り組んでいる児童を学級全体に向けて紹介する。	○意思決定したことを実践している。【思考・判断・表現】〈観察・学習カード〉

8 板書計画



第3学年1組 学級活動（3）指導案

令和3年12月8日(水)第5校時

授業者 教諭 梶 加奈恵

1 題材 「『ステップ アンド ア ステップ』の冬休みの自主学習を考えよう」

(ウ) 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

2 題材について

(1) 児童の実態

「3年生」は教科数が増えて学習内容も難しくなったり、中学年として低学年の見本となったりと新たな一歩を踏み出す学年である。そこで「新しいチャレンジをしてほしい」という願いを込めて学年目標「新たな一歩～どんなことにもチャレンジ～」のもと、「新たな一歩」という言葉を合言葉のように使ってきた。

本学級の児童は、個性的で素直で優しい性格である。誰にでも声をかけて学級の雰囲気をよくしたりまとめたりする児童が中心となり、学級全体がまとまりのある学級となってきている。学級活動では、それぞれの「なりたい3年生」に照らし合わせて「やりたい係活動」に所属したからこそ、イベントに向けて休み時間や学活の時間を使ってみんなが主体的に係活動に取り組んでいる。

国語科「はじめて知ったことを伝えよう」の学習では、図鑑や科学的な読み物を読んで初めて知ったことを2年生に伝えるために、学校図書館やGIGA 端末でさらに詳しく調べてクイズやペープサートで伝えて2年生に楽しんでもらった。それゆえ自分の考えをプレゼンすることに自信をもつことができた。

一方で自主学習となると、家庭で主体的に取り組んでくる児童もいるが、習慣的に取り組むことや丁寧に取り組むことが難しい児童も数名いる。そこで本題材をきっかけに一人一人が楽しく主体的に自主学習に取り組むきっかけづくりをしていきたいと考えている。

(2) 題材設定の理由

「3年生」は自我が確立されはじめ、「自分でやってみたい」「1人でできる」といった考えを持つようになり、自立に向けた1歩を踏み出す時期なので学習習慣の基礎となる大切な学年だと考える。そこで、本時において改めて自主学習をしてよかったこと、冬休みの自主学習でどんな学習してどんな姿を目指したいのかを考えることでこれからの家庭での主体的な学習態度を形成することにつながると考え、本題材を設定した。冬休み後にも「新年の一歩～冬休みの自主学習発表会～」を設定して冬休みの頑張りを承認する時間をもちたいと考えている。

本学年では家庭での主体的な学習態度を形成するために、1学期から週末に自主学習に取り組んでいる。「バッチリメニュー(くりかえし練習)」と「わくわくメニュー(しらべ学習など)」の例を紹介し、バランスよく取り組むように声かけしてきた。また学級だよりの裏面には、学級の友だちの自主学習を紹介することで次の週に同じ内容に取り組んでくる児童も多く、友だちの自主学習を参考にしている児童も多い。はじめは学級みんなが楽しく取り組んでいたが、1学期末から「宿題だから」と惰性で取り組んでいるような様子が見える児童もいた。

そこで2学期から自主学習をブラッシュアップして様々な取り組みをしてきた。①ペアチェック

やギャラリーウォークをして友だちの自主学習を見合う、②自主学習の回数の増加、③自主学習カレンダーで取り組み方を記録に残す、④調べ学習の種を授業の中から見つける、⑤グループで助け合いながらテーマを決めて自主学習をしてアドバイスや温かいコメントをする、⑥ロイロノートを使って自主学習を見せあうことで、自主学習への意欲は格段に上がった。

事前のアンケートで「3年生から今までで自主学習をして、あなたにとってよかったことは何ですか。」という質問に、「自主学習を楽しくできるようになった。」「計算がすらすら解けるようになった。」「自分で学習を自由にできるからいろいろなことができる。」と答えており、自主学習を楽しみ、自主学習のよさを実感してきていることがよく分かった。この取り組みをきっかけに、よりいっそう主体的に自主学習をしたい気持ちが芽生えさせられればよいなと思っている。

3 第3学年及び第4学年の評価規準「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」

観点	よりよい生活を築くための知識・理解	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生活するための課題に気付き、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて意欲的に行動しようとしている。

4 事前の指導

事前の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
・3年生スタートから今までの自主学習での自らの成長を振り返り、自主学習をしてよかったことをアンケートに記入する。	・これまでの自主学習についてのアンケートを用意し、自主学習を通して成長した今の姿をとらえることができるようにする。	◎アンケートに答えることで、3年生スタートから今までの自主学習での成長を振り返り、主体的な自主学習に向けての期待を抱いたりして、学習への見通しをもとうとしている。

5 本時のねらい

3年生スタートから今までの自主学習を通して成長してきたことをふりかえり、よりいっそう自分なりのめあてをもって自主学習ができるようにする。

6 本時の展開

	児童の活動	○指導上の留意	資料	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
導入 つかむ ⑤	<ul style="list-style-type: none"> • これまでに取り組んできた自主学習やアンケート結果から、とても進んで取り組んでいる人がいて、自分に合った取り組み方をしていることをつかむ。 • 毎日進んで取り組んでいるよ。 • 休み時間も進んで取り組んでるよ。 • 気になったことはすぐにパソコンで調べているよ。 • 本日のめあてを確認する。 	○事前にアンケートを実施，現在の自主学習の取り組み具合を想起できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> • 自主学習に関するアンケート結果をまとめた表 	
「成長の手」をもとに，冬休みの自主学習を『ステップ アンド ア ステップ』でステップアップする方法を考えよう。				
展開 すすめる ⑩	<ul style="list-style-type: none"> • よりいっそう自主学習に進んで取り組めるように，成長の手をもとに組み方をさぐる。(がんばる・みちびく・ちょうせんなど) 	○学級で頑張っている指標(成長の手)をもとに組み方をイメージしやすくする。	<ul style="list-style-type: none"> • 学習カード 	
展開 見つける ⑳	<ul style="list-style-type: none"> • 自分に合った組み方を見つけるために，どのように取り組むかを考える。 • パソコンや図書などいろいろな手段を使って詳しく調べることチャレンジしてみようかな。 • さらに，考えたことをもとに友だちに伝え合ったりノートを見せてもらったりして，考えを広げる。 • 友だちにリコーダーのコツをきいて努力して吹ける曲を増やしたい。 	○これまでに取り組んできた自主学習(側面掲示や自分のノート)をもとに，具体的に考えられるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> • 学習カード • 自主学習ノート 	◎主体的な自主学習の姿を明確にし，そのために必要なことについて前向きに話し合っている。【主体的態度】〈観察〉
終末 決める ⑩	<ul style="list-style-type: none"> • 「成長の手」をもとに自分に合った組み方を決定する。 	○ここまで自分で考えたことや話し合いを生かして，自分に合った組み方を学習カードに記入するように伝える。	<ul style="list-style-type: none"> • 学習カード 	◎話し合ったことを生かして，自分が実践することを意思決定している。【思考・判断・表現】〈観察・学習カード〉

7 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
<p>○決めた成長の手に合わせて、自主学習に試行錯誤しながら1週間取り組む。</p> <p>○冬休みに自主学習に取り組む。</p> <p>○冬休み後に実践発表会をして共有する。</p>	<p>○自分が決めた成長の手に合わせて取り組みたいことに取り組めるようにする。</p> <p>○冬休みの自主学習で頑張ったことや成長した姿をふりかえられるようにする。また、互いに認め合える機会にしたい。</p>	<p>◎意思決定したことを実践している。【思考・判断・表現】〈観察・学習カード〉</p> <p>◎実践を振り返り、今後の主体的な活動に向けて生かそうしている。【主体的な態度】〈観察・学習カード〉</p>

8 板書計画

めあて

『ステップ アンド ア ステップ』の冬休みの自主学習にするために、自分に合った成長の手を考えよう。

つかむ

○自主学習を進んで取り組んでいるか・楽しく取り組んでいるか


アンケート結果

気づいたこと


さぐる

○自分に合った取り組み方は？

どりよくの手



みちびく手



チャレンジの手




見つける

○どのように取り組む？

決める

○ふりかえり



令和3年12月8日(水) 第5校時

授業者 教諭 多田 千絵

1 題材「『イワスタバトン引継式』に向けて

自分が引き継ぎたい最高学年としての姿を決めよう」

(イ) 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、授業中は安心できる落ち着いた環境で学習を進めている。今年度は高学年の交換授業を4教科で実施し、教科担任制を取り入れ学年指導体制に力を入れてきた。さらにスクールサポーターや専科教員など様々な教師から学びを教授し、色々な人の価値観に触れる機会が多くあった。児童は教師や友達の話をよく聞いており、ペアやグループで話すことによって自信をつけると、全体での交流も活発に行うことができる。

1学期はじめから、今年度も昨年度に引き続きコロナ禍ではあったが、可能な限りで全校のリーダーとなる5・6年生の繋がりを大切にするために高学年を「イワスタ※1」としてまとめ、活動を進めてきた。1学期には、自分達の活動によって学校がよりよくなることを感じ、目標とする学校像に近づけるためには、どのような「委員会活動(スタプロ) ※2」が必要で、それぞれの委員会の中でどのような仕事や役割ができるかを児童自身が考え、発足させた。そして5・6年生が自分達のカラーを認め合い、一人ひとりが自分の力を生かせる場をつくりあげた。委員会活動(スタプロ)の中では、6年生が中心となって委員会活動(スタプロ)を進め、5年生の手本となるような姿を見せられるよう意識し、取り組んでいる。

2学期の運動会では、「運動会スタプロ※3」と位置付けた係活動での活躍がみられた。運動会のスローガン「みんなが主役! 全力でつながるつなげる笑顔の輪」に向けて5つの係活動が生まれた。係活動の中では、与えられた役割ではなく、岩倉北小の目指す学校教育目標の中の「好きなことをする」「人のためにする」「すすんでする」ことができる姿(なりたい自分)の視点をもって活動する姿がみられた。5・6年生が運動会の中で全校児童や保護者、地域の人への視点を持ちながら、イワスタの一員として学校を盛り上げる楽しさややりがいを感じてきた。

2学期のまとめに向けて、児童はこれまでの活動やこの1年間一生懸命に取り組んできたことを振り返ってきた。これまで学校をよりよいものにするために最高学年として果たしてきた役割を次の最高学年へ伝える準備をしていきたい。

※1「イワスタ」とは、高学年の児童を指す。イワスタのイワ=岩倉北小学校の・スタ=スター(岩倉北小学校の輝くスターになる)スタイル(岩倉北小の型や形をつくる)スタッフ(行事やイベントを企画し、みんなを支えるスタッフになる)という意味が込められている。

※2「委員会活動(スタプロ)」とは、イワスタプロジェクトの略。児童会活動のうちの高学年が担う委員会活動にあたる。岩倉北小の児童にとって学校生活がより楽しく、より充実したものになるよう学校内の仕事を分担し、よりよい学校を目指し、主体的に取り組んでいる。

※3「運動会スタプロ」とは、運動会を円滑に運営し、スローガンの達成に向けて必要だと考えた運動会係活動のこと。

(2) 題材設定の理由

この9か月イワスタとして活動をしてきたことで、児童はイワスタの仲間と一緒に学校を盛り上げることができた。よりよい学校にするために自分のよさを生かし、仲間と共に力を合わせて働くことの喜びや大切さを実感してきた。

運動会後には総合的な学習の時間と関連させながら、あと半年で「岩倉北小に何を残していけるのか？」を問いかけてきた。卒業まで残り60日となった今、イワスタの活動も3学期には集大成を迎えることとなる。児童は、委員会活動(スタプロ)のことや運動会での係活動の振り返りから、1年間自分がよりよい学校生活のために最高学年として役割を果たすこと・自分のよさを生かしながら仲間と協力する楽しさ・やりがいを実感している。

5月に予定されていたイワスタオープニングイベントであった「イワスタ合宿」は来年の1月18日～19日に延期となった。その合宿の中ではイワスタエンディングイベント「イワスタバトン引継式」を行う予定である。その引継式では、最高学年である6年生が次の岩倉北小を担う5年生へ決まっている児童会行事や委員会活動を、単に引き継ぐのではなく、学校をよりよいものにするために最高学年として果たしてきた役割やその役割を果たすことによって得たものを5年生へ引き継ぐ式にしたい。

「つかむ」では、前半に事前にとった6年生へのアンケートで、学校をつくり上げる最高学年としての1年間を振り返って岩倉北小学校はよりよい学校になったと実感している児童が多いことを知る。なぜそう思うのかを問い、最高学年として取り組んだ姿が色々な場面であったことを振り返る。また、5年生へのアンケートをもとに5年生自身もつ最高学年に向けての思いを知る。そこで5年生がもつ学校を担う最高学年に向けての期待や不安を抱えていることが分かる。次に6年生にとったアンケートの質問から、次の岩倉北への思い・5年生や在校生に引き継ぎたい思いをもっているやイワスタ合宿という場面を見通している児童の思いを紹介し、6年生の思いを5年生へ伝えていくことがこれからの自分の役割であるとかつかむことができるようにする。

「さぐる」では、岩倉北小学校がよりよい学校になったと考える場面で、それぞれの児童が頑張ったことと伝えたい理由をさぐる。委員会活動(スタプロ)で取り組んだことやイワスタウォークラリー、運動会スタプロや他学年との授業での交流、学校のために行うプール清掃など学校づくりを支えてきたことが多くある。1つの場面においても仲間と協力して作り上げたことや、自分のよさを生かし工夫できたことなど一人ひとり最高学年としてみせる姿は違う。頑張ったことを問いかけ、色々な場面で自分が「取り組んだこと」と「良かったこと」をペアで話し合うことで、伝えたいと思う最高学年としての姿を具体的に、自分に近づけていく。

「見つける」では、頑張ったこと(伝えたい最高学年としての姿)をどのように5年生に伝えるかを問いかけ、伝えたい最高学年として姿から自分が得られた価値を多面的に捉え、実際に伝えることをグループの話し合いを通じて見つけていく。5年生に伝えることとして、自分が頑張ったと思うことだけでなく、自分のためだけでなく低学年や学校のために思った目的意識があってこそ岩倉北小をよりよい学校にしてきたことを自覚させる。5年生に引き継ぎたい姿とは、引き継ぎたい場面や取り組んだことだけでなく、そこで繋がった他学年児童との関わりや岩倉北小に関わる人との繋がりで得られた価値・やりがいや喜び、岩倉北小がよりよい学校へ近づいたと実

感できたことを考えられるようにしたい。グループ交流では、委員会活動(スタプロ)ごとのグループでの話し合い・運動会スタプロ、他イワスタ活動や他学年との授業などでの場面の話し合いの2部に分けて交流し、同じ思いをもって取り組んだ仲間と引き継ぎたい姿を語り合える時間にしたいたいと考える。

「決める」では、これから5年生へ伝えたいこと、どんな場面で自分は頑張ったのか、そこで果たしてきた役割やその役割を果たすことによって得た自分の姿(なりたい自分)をイワスタ合宿のしおり「5年生へ」の欄に書きまとめる。そしてイワスタ合宿では6年生の思いを伝える場としてイワスタバトン引継式があることを紹介し、伝え方はそれぞれ自分の思いが伝えられる方法をこれから合宿までに考えることを知るようにする。

3 第5学年及び第6年の評価規準「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現 イ」

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生きるための課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。

4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿【観点】〈評価方法〉
<ul style="list-style-type: none"> 6年生として次の岩倉北への思い・5年生や在校生に引き継ぎたいことをそれぞれが思っていることを表現できるようなアンケートを実施する。 5年生に最高学年に向けての期待や不安、それぞれが抱えていること表現できるようなアンケートをとる。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの中で、これまでの自分の頑張りをポートフォリオやキャリアパスポートで振り返った上で、引き継ぎたいと思う姿をイメージできるようにする。 5年生と6年生の立場の違いを明確にし、互いの学年の考えを比べるために、5年生にもアンケートを実施、協力してもらおう。 運動会ノートやスタプロ掲示板やカレンダー、キャリアパ 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートに答えることで、今までのイワスタの取組を振り返り、自分の役割を果たすことについて考えることができる。【主体的な態度】〈アンケート〉

	スポーツを活用し、これまでの自分の頑張りに気付くようにする。	
--	--------------------------------	--

5 本時のねらい

『イワスタバトン引継式』に向けて、これまでのイワスタでの活動や運動会スタプロなどを振り返って、自分の頑張りや友達の頑張りを認め合い、次の6年生へ引き継ぎたい姿（引き継ぎたい最高学年としての場面、そこで頑張ったこと、伝えたい価値）を決める。

6 本時の展開

	児童の活動	○指導上の留意	資料	◎目指す児童の姿 【観点】 〈評価方法〉
導 入 つ か む ⑩	1 これまでの自分の頑張りに気づき、岩倉北小がよりよい学校へ近づいていると感じる。	○岩倉北小学校はよりよい学校になったと実感している児童が多くいることを知ることができるようグラフにして表すようにする。	・これまでの児童の頑張りやイワスタの軌跡が分かる資料	
	2 岩倉北小がよりよくなったと感じる場面を振り返る。	○最高学年として取り組んだ姿が色々な場面であったことを振り返られるようにキャリアパスポート等を活用する。	・5,6年それぞれのアンケート結果	
	3 これから次の6年生へ自分の最高学年としての思いを伝えることが最高学年としての役割だと知る。	○5年生の最高学年に向けての不安を抱えていることに気づくことができるようなアンケート結果をグラフに表す。 ○6年生には次の岩倉北への思い・5年生や在校生に引き継ぎたいことをそれぞれが持っていることを知るために色々な意見を取り上げる。		
一人ひとりが5年生に伝えたいことを決めよう。				

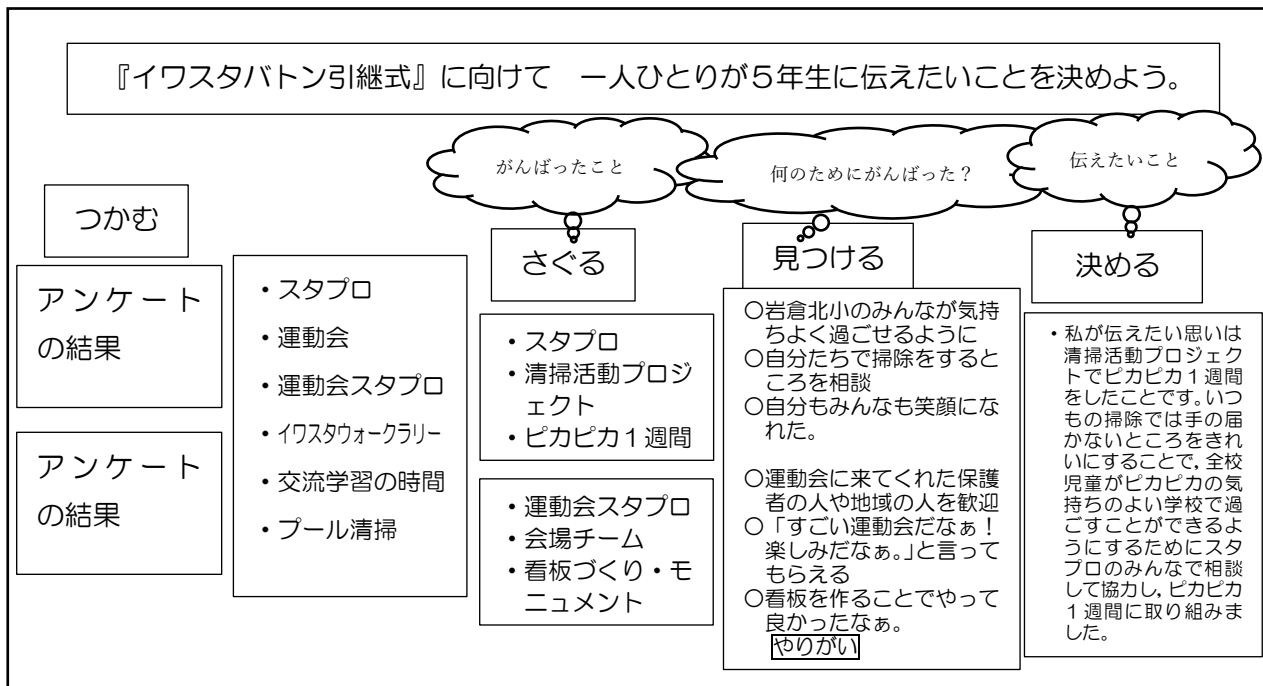
		<p>○イワスタ合宿など残りの学校行事や学校生活が5・6年の思いを共有できるチャンスだと知り、その実践への意欲を高めていけるようにする。</p> <p>○6年生として5年生へ確実なバトン渡しをするには、1人1人が自分の頑張った場面を想起し、伝えたい姿を一人ひとりが決めるということが最高学年としてのこれからの役割があるということを知らせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学校行事の写真や資料 • 5年生のアンケート結果 	
展開さぐる⑤	3 自分が引き継ぎたいと考える場面で、頑張ったことを話し合い、伝えたい理由を探っていく。	○イワスタ活動の取組から自分たちの頑張りが学校づくりを支えてきたことを実感し、1つの行事でも自分なりの役割を果たせたことを探ることができるよう言葉かけをする。		
展開見つける⑳	4 引き継ぎたい理由をもとに、5年生に最高学年としてどのように伝えていくか（頑張ったこと・何のために取り組んだのか・そこで得られた価値）を見つける。	<p>○5年生に伝えるためには、自分のために取り組んだことだけでなく、学校がより良くなったことや他の人との繋がり役になれたことなどを多面的な見方ができるよう言葉かけをする。</p> <p>○グループ交流では、話し合いの場を2部に分けて交流し、同じ思いをもって取り組んだ仲間と引き継ぎたい姿を語り</p>	<ul style="list-style-type: none"> • イワスタ合宿のしおり 	<p>◎お互いの思いを聞き合い、アドバイスをしている。</p> <p>【主体的態度】 〈話し合い〉</p>

	5 話し合ったことを全体で交流する。	合える時間になるようにする。 ○前半の話し合いのあとに中間評価をし、学校がより良くなったことや他の人との繋がり役になれたことなどを得られた価値を多面的に捉えられている児童を取り上げ、紹介する。		
終末決める⑩	6 次の6年生へ自分が伝えたいことを決める。 7 イワスタ合宿に「イワスタバトン引継式」の時間があることを知る。 8 自分が伝えたいことをイワスタ合宿のしおりに書く。	○迷っている児童については、引き継ぎたい場面と理由を問いかけ、整理して時間をかけて丁寧に考えられるようにする。 ○今日決めたことを土台に「イワスタバトン引継式」で6年生の思いを5年生へ引き継ぐことを伝えられるようにする。	・イワスタ合宿しおり	◎話し合ったことを生かして、自分が引き継ぎたい姿を意思決定している。【思考・判断・表現】 〈観察・ワークシート〉

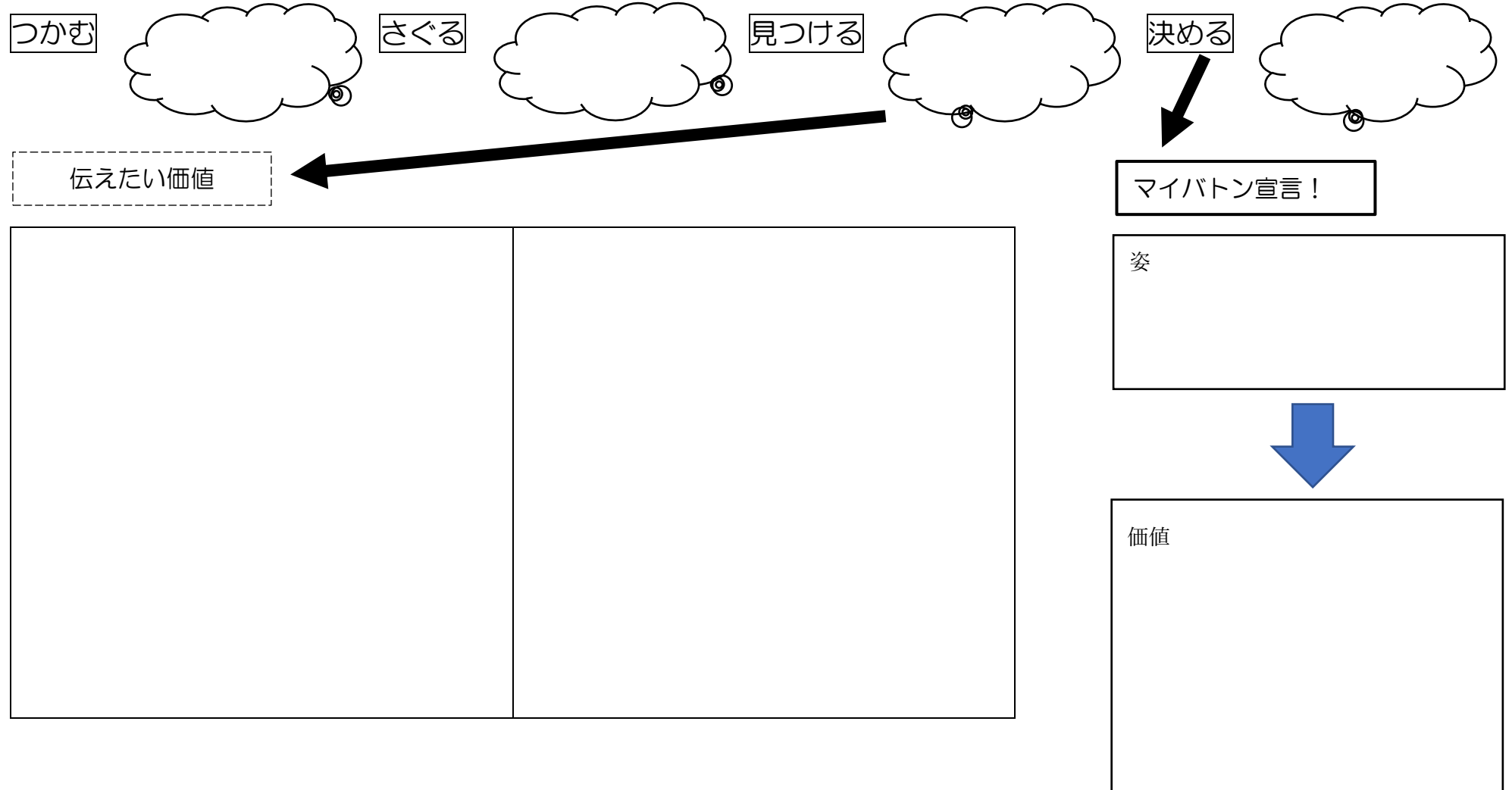
7 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
意思決定した引き継ぎたい「マイバトン」を伝えるための方法を考える。	○教室に一人ひとりの「マイバトン」を掲示するなどして、1月の花背山の家で自分が伝えるんだという意欲付けとなるようにする。	◎意思決定したことを前向きに実践しようとする準備を進めている。【思考・判断・表現】 〈観察〉

8 板書計画



めあて 『イワスタバトン引継式』に向けて 自分が引き継ぎたい最高学年としての姿を決めよう。



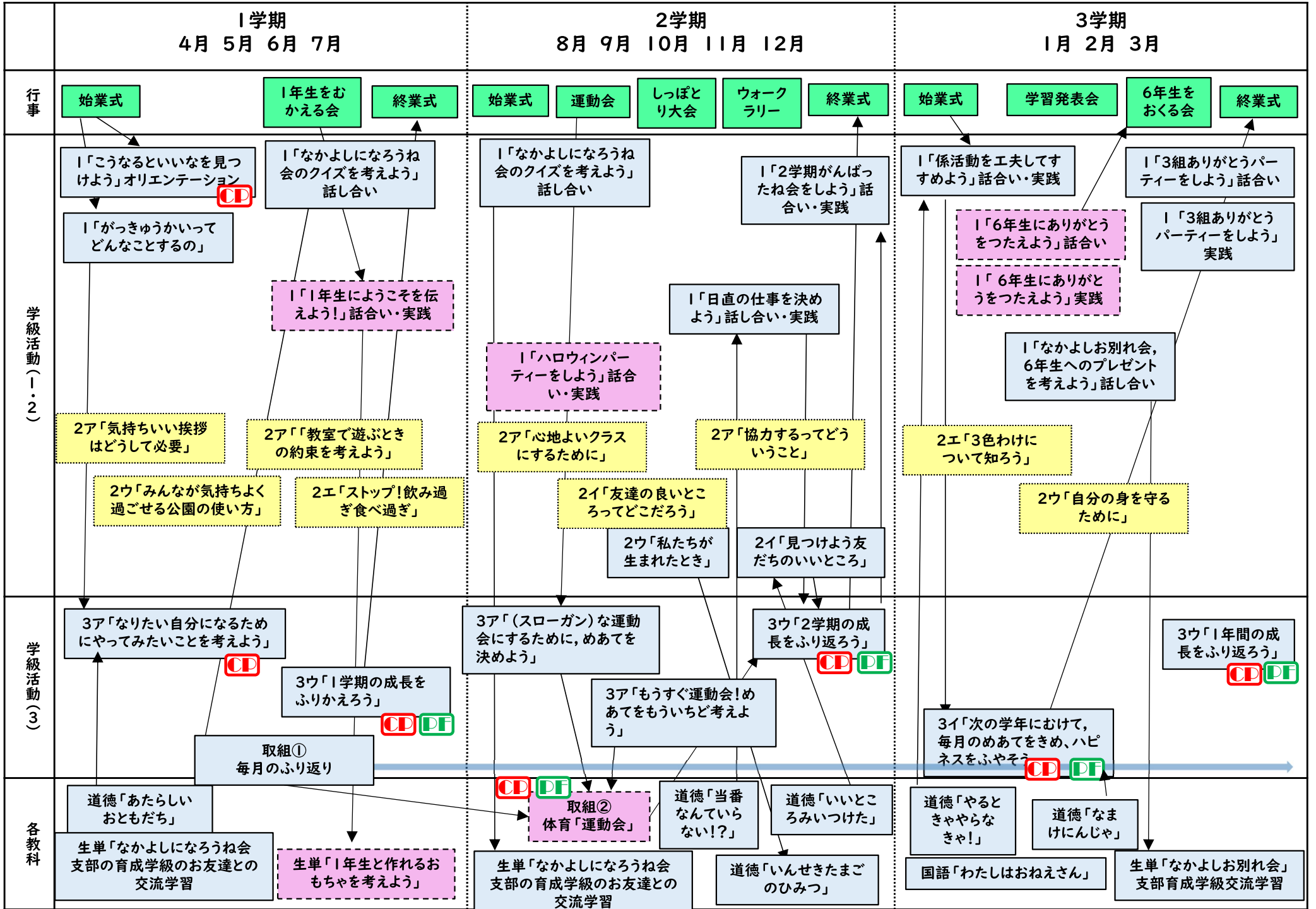
令和3年度 育成学級 学級活動年間指導計画

※ **CD** キャリア・パスポートの活用 **DF** ポートフォリオの活用

横のつながり

縦のつながり

その他



育成 取組① 毎月のふり返り

【取組について】毎月、月末に子どもたちが取り組んだことを写真で提示し、年度初めに定めた「えがお」「つながる」「かがやく」という学級目標の視点をもってふりかえりを行っている。写真を使うことでがんばりを可視化し、自分自身を振り返るための支援とした。また、教室に掲示していくことで自分たちのがんばりが積みあがっていることを実感できるようにしている。

【子どもの変容】はじめはばかりのころは、写真を見て楽しむことが中心の時間だったが、少しずつ振り返る視点をもとに出来事を具体的に思い出し振り返りを行うことができるようになっていく。10月には、「今日はつながり達成できるね」など自分たちから視点をもって活動に取り組む姿も見られるようになった。

【結果から見えてくること（考察）】視点を明確にすることで、自分たちが大切にしたい姿をだんだん思い浮かべながら活動できるようになっていった。また、繰り返し継続することや視覚化することで振り返りが苦手な児童も自分を見つめ直すことができるようになっていくと考えられる。

毎月のふり返り

出来事を可視化し、視点をもとにふりかえっている。

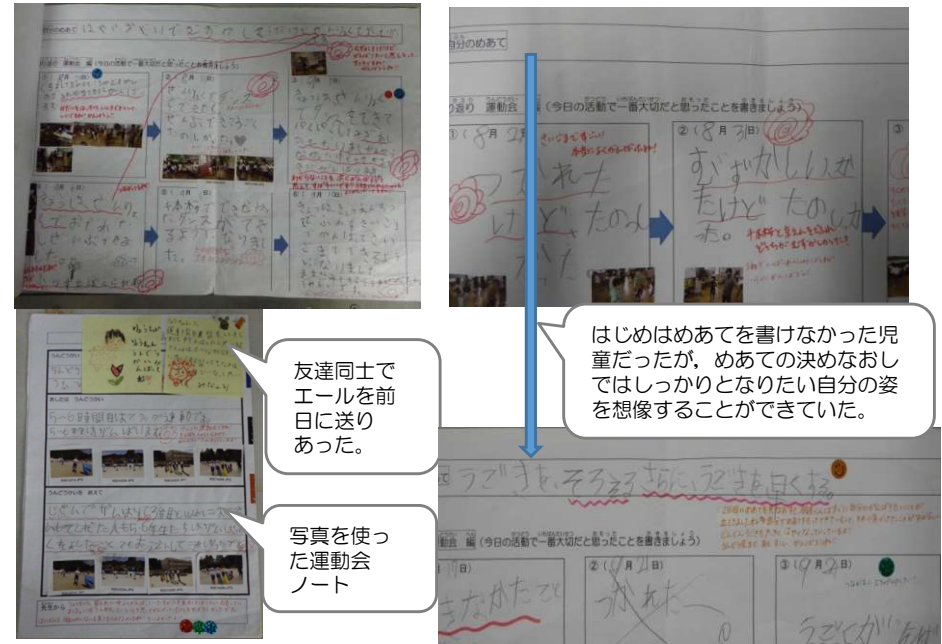


育成 取組② 運動会でのふり返り

【取組について】自分自身を振り返ることが難しい子どもたちでも少しずつ自らの成長を感じられるように、また振り返りがしやすいように写真を貼って初めのうちは振り返りができるようにした。また、めあてを自分で立てにくい子どもたちであるため、練習期間の途中でもう一度めあてを立て直す活動を入れ、最後まで自分をふりかえりながらめあてを持って活動できるようにした。

【子どもの変容】はじめは写真を見て、その姿を見て振り返るというより、写真を手掛かりにこんなことがあったな、こんなことを先生が言っていたなと思い出して振り返りを書いている様子だった。だんだん写真がなくても書けるようになっていき、写真を張るスペースがないくらい書きたいことが増えていったようだ。また、初めのめあては空白で出していた児童も、2回目のめあて決めでは日々の振り返りをしっかりとしていたことから、すんなりと運動会当日になりたいた姿を書くことができた。

【結果から見えてくること（考察）】写真を使用することで、自分の変容が分かって支援になると思っていたが、それよりも思い返す手がかりとして写真が支援になっていたことがわかった。運動会前日にも同じように写真を張ると、初めの姿と顔も何となく違うなど自分の成長を実感することができていた。また、ある程度進んでからなりたいた自分の姿を考えなおすことが育成学級の子どもたちにとってとても大事なことがわかり、他の教科でも活かしていきたいと思う。



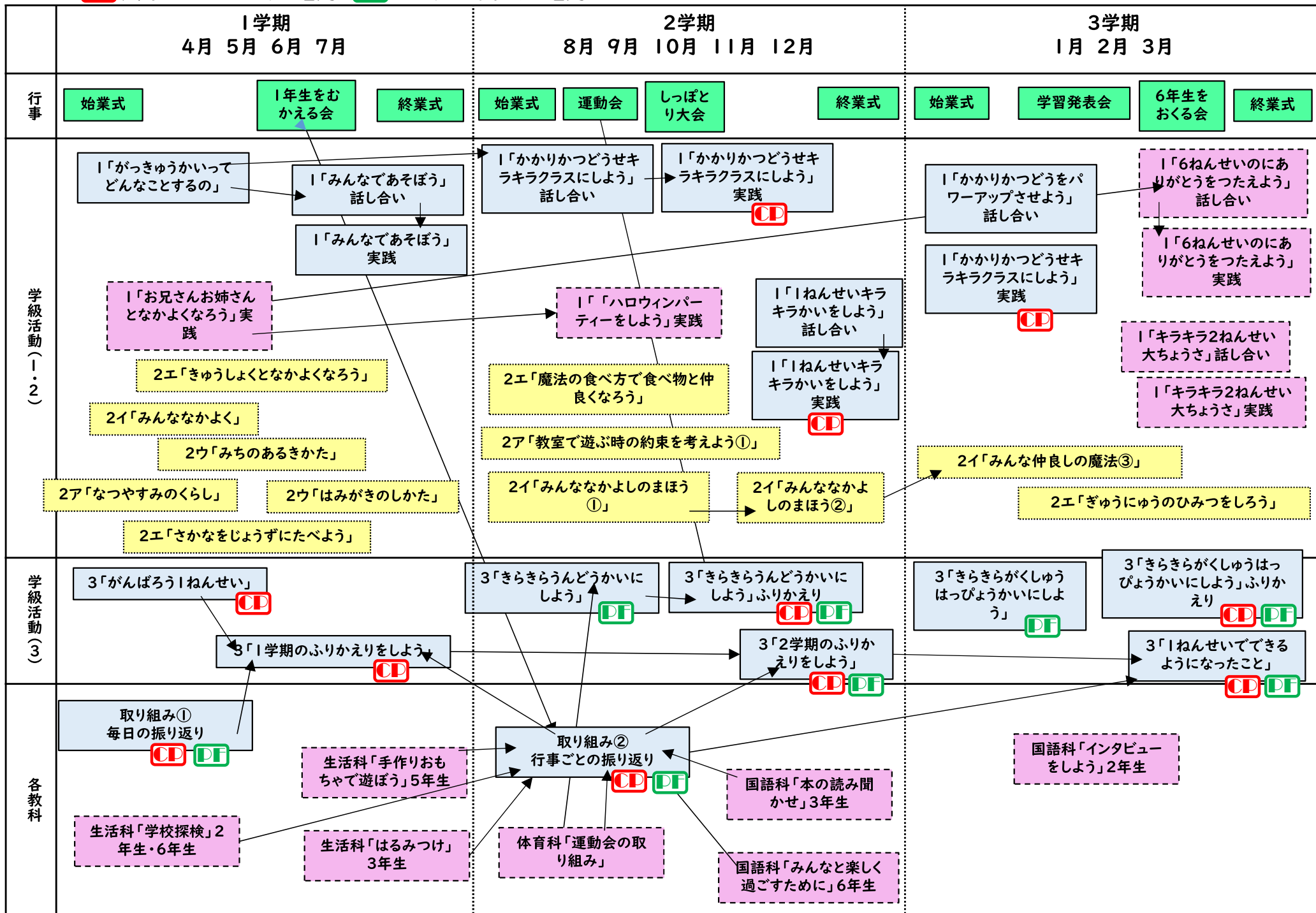
令和3年度 第1学年 学級活動 年間指導計画

※ **CD** キャリア・パスポートの活用 **DF** ポートフォリオの活用

横のつながり

縦のつながり

その他



1年 取組① 毎日・毎週の振り返り

【取組について】学年目標で定めた、学校生活における5つの頑張りたいことに対して、振り返りを3種類している。

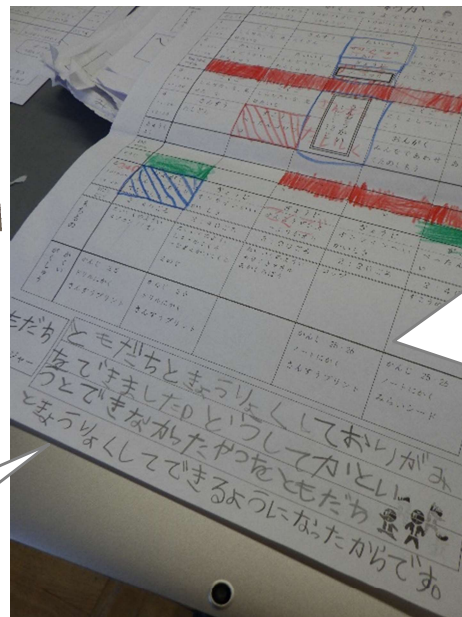
- ①頑張った項目に、シールを貼りクラスみんなで貯めていき、掲示する。
- ②週予定を見て、どの時間で、どんな項目を頑張ったのか、色を塗る。
- ③週末に、1週間を振り返って、どの項目を頑張ったのか、またその理由について文章で書き記す。

【子どもの変容】毎日、自分自身を振り返ることで、「振り返る」という基盤ができてきている。また、シールを貼ったり、色を塗ったりすることで自分の頑張りが可視化され、さらによりになりたいと頑張る姿が見られる。

【結果から見えてくること（考察）】毎日・毎週を振り返ることによって、学校生活の中でなりたい自分の姿を見つけることができやすくなった。また、1週間自分自身の頑張りを振り返ることで、子どもたちの中で達成感や自信につながっていると考えられる。



クラスみんなでシールをためている。



一週間を振り返って、文章で表す。

毎日の中で、自分が頑張った時間に色を塗る。塗る色は、学年目標で提示した五項目の色に分けている。

1年 取組② 一年間の取り組みの可視化

【取組について】

1年間の学校生活の中でピックアップした足跡を、廊下に写真で掲示した。その時に、その時の気持ちを文章で表し写真とともに掲示した。

【子どもの変容】はじめは、教員が子供の気持ちを代筆していたが、徐々に自分の言葉で詳しく書き表せるようになってきた。また、取組み①での一週間の振り返りでも、内容を詳しく書けるようになってきている。

【結果から見えてくること（考察）】その時々気持ちを書き留めておくことで、子どもたちの日々の成長が目に見えて分かる。それにより、自分たちが成長したという自信を持つことができ、次の活動を積極的に行えると考えられる。



はじめは、大人が代筆していたが、今では子供たち自身が書き込んでいる。



他学年からももらったメッセージを、掲示することで、子どもたちの意欲が上がった。

取組み①で、貯めた充電の掲示物が、どの行事で活かされたかを掲示している。

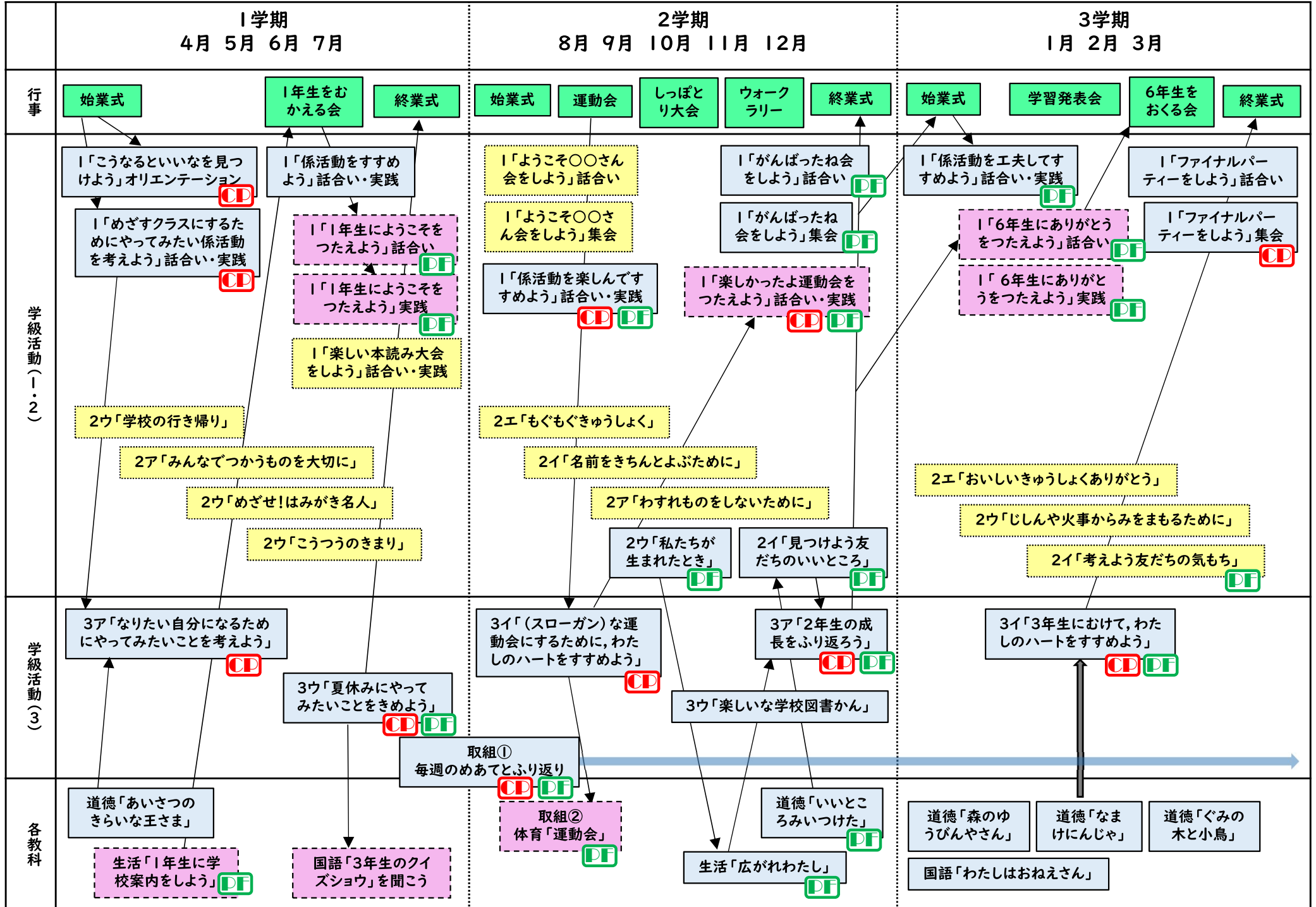
令和3年度 第2学年 学級活動 年間指導計画

※ **CD** キャリア・パスポートの活用 **DF** ポートフォリオの活用

横のつながり

縦のつながり

その他



令和3年度 第3学年 学級活動 年間指導計画

※ **CD** キャリア・パスポートの活用 **PF** ポートフォリオの活用

横のつながり

縦のつながり

その他

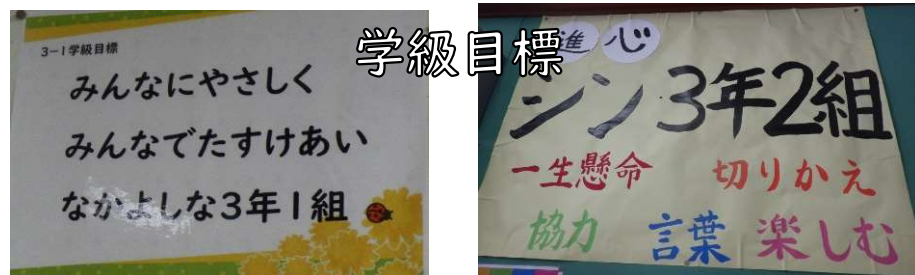
	1学期 4月 5月 6月 7月	2学期 8月 9月 10月 11月 12月	3学期 1月 2月 3月	
行事	始業式 1年生をおかえる会 終業式	始業式 運動会 しっぽり大会 ウォークラリー 終業式	始業式 学習発表会 6年生をおくる会 終業式	
学級活動(1・2)	<p>取組①「学級目標をつくらう」話し合い CD</p> <p>1「よりよいクラスにするための係活動を決めよう」話し合い・実践 CD</p> <p>2ア「気持ちいい挨拶はどうして必要」</p> <p>2ウ「みんなが気持ちよく過ごせる公園の使い方」</p> <p>2エ「教室で遊ぶときの約束を考えよう」</p> <p>2イ「1学期がんばった会をしよう」話し合い CD PF</p> <p>1「1学期がんばった会をしよう」集会</p>	<p>1「係活動レベルアップ大作戦」話し合い・実践 PF</p> <p>1「もっと6年生と仲良くなろう」集会</p> <p>取組①「2学期の成長を振り返ろう」話し合い CD PF</p> <p>1「クリスマス会をしよう」話し合い</p> <p>1「友達の良いところを発表しよう」集会</p> <p>2ア「心地よいクラスにするために」</p> <p>2イ「友達の良いところってどこだろう」</p> <p>2ウ「みんなが気持ちよく過ごせる公園の使い方」</p> <p>2エ「ストップ!飲み過ぎ食べ過ぎ」</p> <p>1「クリスマス会をしよう」集会</p> <p>2ア「協力するってどういうこと」</p>	<p>1「係活動パワーアップ大作戦」話し合い・実践 PF</p> <p>1「ありがとう6年生の会しよう」話し合い</p> <p>1「3年生ありがとう集会をしよう」話し合い</p> <p>1「得意なこと発表会をしよう」話し合い PF</p> <p>1「得意なこと発表会をしよう」集会</p> <p>2エ「3色わけについて知ろう」</p> <p>2ウ「自分の身を守るために」</p> <p>取組①「1年間の成長と振り返ろう」話し合い CD PF</p> <p>1「3年生ありがとう集会をしよう」集会</p>	
学級活動(3)	<p>3ア「なりたい3年生と今やってみたいことについて考えよう」 CD</p> <p>3ウ「上手な学校図書館の使い方について考えよう」</p> <p>3ウ「充実させよう3年生の夏休み」 CD PF</p>	<p>3イ「運動会でレベルアップ!」 CD PF</p> <p>3ウ「充実させよう3年生の冬休み」 CD PF</p>	<p>3イ「つくりあげようわたしたちの学習発表会」 CD PF</p> <p>3ア「なりたい4年生になるためには今できることについて考えよう」 CD PF</p>	
各教科	<p>取組②理科「1年生に学校の自然を紹介しよう(春)」</p> <p>国語「もっと知りたい、友達のこと」</p> <p>取組②国語「きつつきの商売 1年生に読み聞かせをしよう」</p>	<p>国語「図書館たんていだん」</p> <p>道徳「お母さんのふふふ(個性の伸長)」</p> <p>取組②国語「はじめて知ったことを2年生に知らせよう」</p>	<p>取組②体育「運動会に向けて-4年生との協力」</p> <p>道徳「みんなのわき水(規則の尊重)」</p> <p>取組②国語「はんで意見をまとめよう」</p>	<p>社会「安全なくらしを守る」</p>

3年 取組① 身に付けたい力をクラスで明確にする

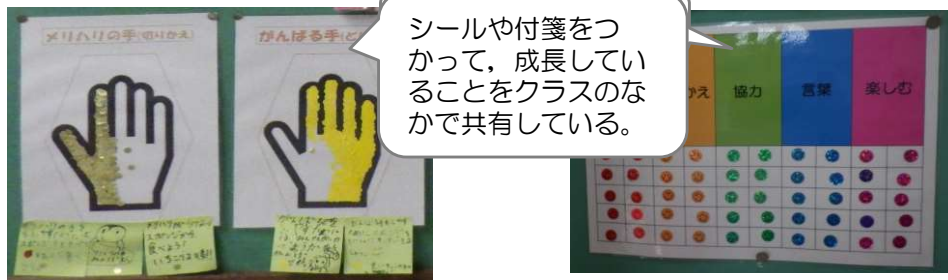
【取組について】「なりたい3年生の姿」について話し合い、1年間で身に付けたい力を明確にし、その視点を学級目標として設定した。成長が実感できるように、視点に沿って友達のいいところを見つけを行ったり、学習のふりかえりを記述したりした。また、その成長に対して担任からのコメントを残し、時には掲示することで成長の「見える化」を図った。

【子どもの変容】子どもから「一生懸命に取り組んだ」「やさしく友達に関わることができた」という視点に関わる言葉が聞こえるようになった。また、自分自身の得意なことをクラスのために生かそうとしたり、クラスをよりよくしていくための取組を友達と協力して自主的に行おうとする姿が見られるようになった。

【結果から見えてくること（考察）】身に付けた力を明確にすることで、子どもやクラスが向かうゴールがはっきりし、それを意識して日々の生活を過ごすことができるようになったと思われる。また自らの成長が実感できていることで自己肯定感が高まり、前向きな行動が増えたと考えられる。



学級目標



シールや付箋をつかって、成長していることをクラスのなかで共有している。

3年 取組② 異学年との交流

【取組について】各教科の単元のゴールや運動会などの行事などを通して、異学年との交流の機会を多く設定した。ともに活動を行ったり、学習したことを発表したりするなど様々な形態の交流を行った。

【子どもの変容】最初の頃は担任が場を設定することが多かったが、交流の経験を積み重ねることで、自分達から「交流したい」「学んだことを伝えたい」などの声が挙がるようになった。また取組後には、「一緒に学習できたよかった」「メッセージを送りたい」といったつながりを実感している様子も見受けられた。

【結果から見えてくること（考察）】異学年との交流を設定することで、目的意識・相手意識が芽生え、学習への取り組み方が能動的になった。また、交流後の充実感からは、たてのつながりが強くなったことがわかる。今後も継続して繰り返していくことによって、高学年になった際の学校運営にも生かされていくと思われた。



年下の学年の子たちには、やさしく寄り添う姿がたくさん見られた。

運動会後のメッセージの交流。他の学年からの感想を真剣に読んでいる。

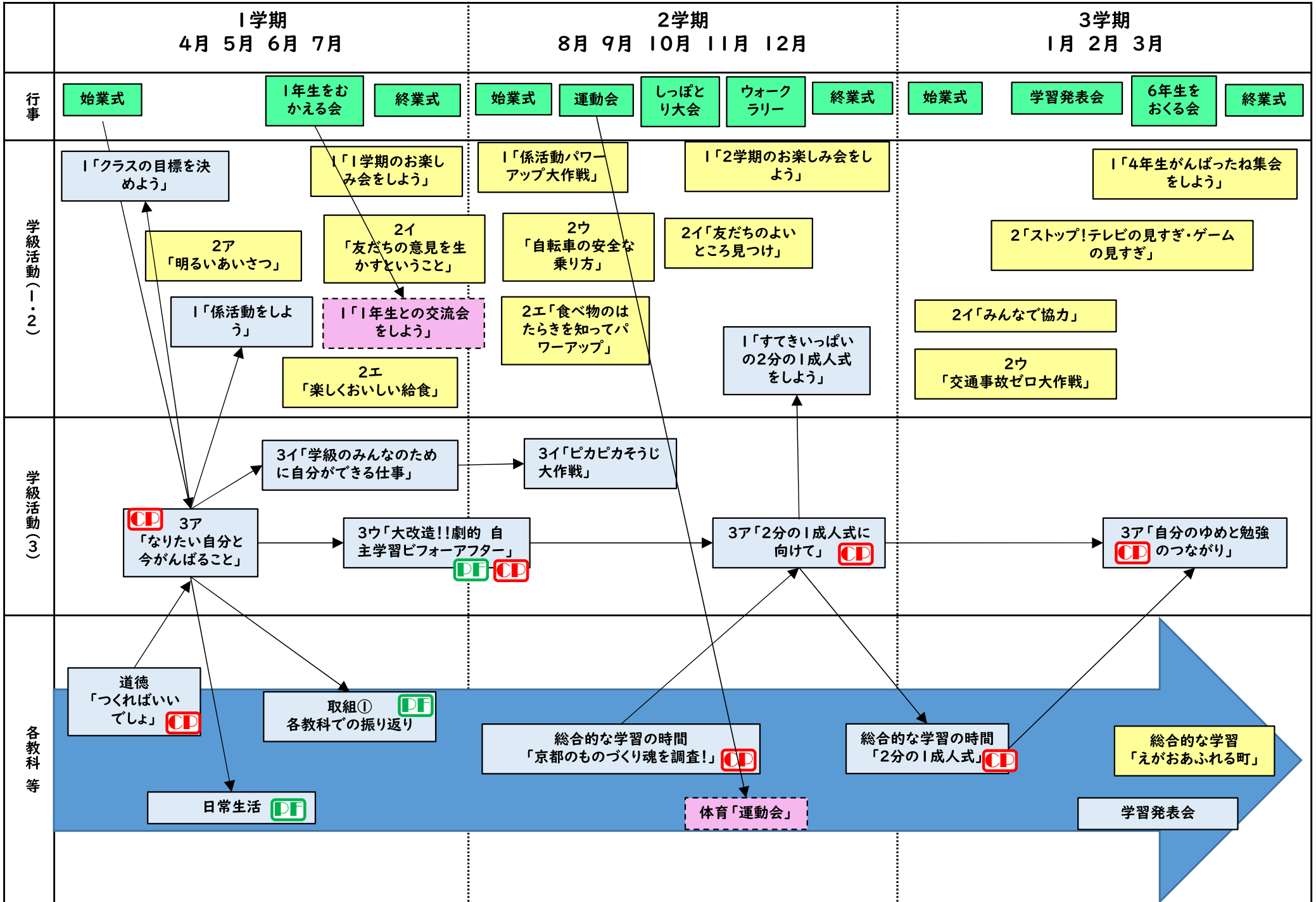
令和3年度 第4学年 学級活動 年間指導計画

※ **CD** キャリア・パスポートの活用 **DF** ポートフォリオの活用

横のつながり

縦のつながり

その他



4年 取組①「なりたい自分（自己実現）」に向けて

取組について

年度当初に、なりたい自分になるために4年生でどんな力を付けたいかを考えた。

- ①学校教育目標を踏まえて、4年生では、春休みの時間や4月の子どもの様子を踏まえて4年生として付けてほしい力を子どもたちに示した。また、子ども自身が「なりたい自分」になるために必要な力を考え共有した。それらを組み合わせ学級目標を考えた。
- ②なりたい4年生の姿を目指すために必要な力を学級ごとで考え、具体的な姿を考えキーワード化した。
- ③キーワード化したものをピクトグラムやレンジャー（図1）を使い、可視化した。

実施の具体

例えば、子どもが苦手な算数の計算に挑戦している際にこの可視化したもの提示し、「〇〇さんは、苦手なことに挑戦しているね」と声をかけると、この姿が挑戦することだと子どもが認識することができた。これらを他の教科等でも同様にする事で様々な場面で意識して取り組めると同時に、つながりをもつことができるようになった。（図3）

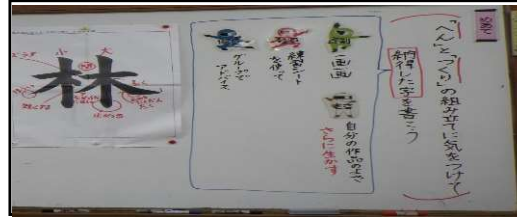
また、めあてを考える際、可視化したものを視点として取り入れることで、教科のねらいとなりたい自分についての2つの視点で学習を振り返ることができ、たくさんの成長を実感することができた。

子どもと指導者の変容

子どもが学習中に力を発揮していた際、可視化したものを提示することで、「今この力がついた」と実感することができた。また、子どもたちが発揮する場面を意識することや「この力はこういう姿なのか」と具体的に共有することができた。（図2）

子どもの変容

教科のねらいとキャリア教育でつけたい力の2つの視点で振り返ることができ、1時間の学習の中で2つの成長を感じることができるようになった。4月当初の子どもたちの姿と比べて、やる気をもって、学習に取り組む姿が見られた。また、振り返り活動を意欲的に書く姿も見られた。子どもそのことで子どもたちの自己肯定感の高まりを感じることができた。



4年 取組②「自主学習」

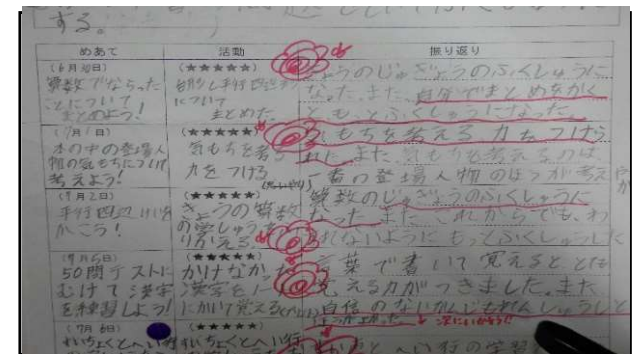
取組について

学習は主体的に、意欲的に進めさせたい。家庭学習も同様であると考える。そこで今年度4年生は、意欲的・主体的な家庭学習を目指して取り組もうと考えた。

- ①家庭学習のアンケートの実施・子どもの意識の実態の把握するためにアンケートを実施
- ②家庭学習について考えるために家庭学習のない期間を設けた
- ③どんな家庭学習がよいか考えるために、学級活動3ウ「大改造！劇的ビフォーアフター」の授業の実施
- ④継続的な「自主学習」の取組

子どもの変容

子ども自身が「なりたい自分（自己実現）」に向けて必要なことを学習することが多くなった。（図3）



令和3年度 第5学年 学級活動 年間指導計画

※ **CD** キャリア・パスポートの活用 **DF** ポートフォリオの活用

横のつながり

縦のつながり

その他

	1学期 4月 5月 6月 7月	2学期 8月 9月 10月 11月 12月	3学期 1月 2月 3月
行事	始業式 1年生をおかえる会 終業式	始業式 運動会 しぼり大会 就学時健診 終業式	始業式 イワスタ山の家 6年生をおくる会 学習発表会 終業式
学級活動(1・2)	<p>1 学級会を充実させよう(オリエンテーション) CD</p> <p>1 「イワスタで想像以上の学校をつくり上げよう」話し合い・実践 DF</p> <p>1 「1年生におもちゃを贈ろう」話し合い・実践 DF</p> <p>1 「もっとなかよくなる会をしよう」話し合い・実践 CD</p> <p>1 「もっとなかよくなる会をしよう」集会 CD DF</p> <p>1 「もっとなかよくなる会をしよう」集会 CD DF</p> <p>「イワスタの絆を深めようウォークラリー」へ行こう DF</p> <p>2ア「なるぞ!整理整頓名人」</p> <p>2イ「男女仲よく」</p> <p>2ウ「栄養のバランス」</p>	<p>1 「イワスタで伝説の運動会をつくり上げよう」話し合い CD DF</p> <p>1 「イワスタで伝説の運動会をつくり上げよう」話し合い・実践 CD DF</p> <p>2イ「運動会での5年生の役割は」 CD DF</p> <p>2ウ「災害にそなえて」</p> <p>2エ「日本の食文化と和食」</p> <p>1 「伝説の学年会をしよう」話し合い・実践 DF</p> <p>1 「伝説の学年会をしよう」集会 DF</p> <p>1 「係活動をGear upさせよう」話し合い・実践 DF</p> <p>1 「係活動をGear upさせよう」集会 DF</p> <p>1 「シン1年生おもてなし計画を立てよう」話し合い・実践 DF</p> <p>1 「シン1年生おもてなし計画を立てよう」集会 DF</p>	<p>1 「イワスタ山の家合宿で6年生の想いを引き継ごう」話し合い・実践 CD DF</p> <p>1 「6年生にありがとうをつたえよう」話し合い DF</p> <p>1 「6年生にありがとうをつたえよう」実践 CD DF</p> <p>1 「最高の最高学年になるための〇の目標宣言式」話し合い CD DF</p> <p>1 「最高の最高学年になるための〇の目標宣言式」集会 CD DF</p> <p>2ウ「病気の予防と健康で楽しい生活」</p>
学級活動(3)	<p>3ア「高学年になって」 CD DF</p> <p>3ウ「わたしは学校図書館活用名人」</p> <p>3ウ「夏休みの課題を決めよう」 DF</p> <p>取組① Gear Mapで自分を知ろう</p>	<p>3イ「(スローガン)な運動会にするために、自分が果たしたい役割を決めよう」 CD DF</p> <p>3イ「就学時健診での5年生の役割」 DF</p>	<p>3ア「最高学年に向けて」 CD DF</p>
各教科	<p>道徳「あいさつ運動」</p> <p>図工「こまどリアを作ろう」 DF</p>	<p>取組② 体育「運動会」 CD DF</p> <p>家庭「食べて元気!ご飯とみそ汁」</p>	<p>保健「けがの防止」</p> <p>国語「伝わる表現を選ぼう」</p>

5年 取組①「Gear Map」で自分を知ろう

【取組について】学校全体に関わる高学年となり、学校の一員としてできることを考えたり挑戦したりする機会が増えた。そのため、自分を知り、自分の活かし方や挑戦したいことを考え、決めることが必要となった。考えるための材料として、自分の得意なことや好きなこと、目標などを自由に書き込むことのできるMind Mapを採用し、年間通して書き溜めていくことのできるものとした。

【子どもの変容】自分の役割を決める段階では「Gear Map」を見返しながら、挑戦したい役割や自分を活かすことのできる役割について考えることができた。自分の得意なことがなかなか言えなかった児童がはっきりと自分の果たしたい役割を言えるようになったり、あらゆる学習の中で「なりたい自分」を意識して活動できるようになった。

【結果から見えてくること（考察）】自分を認めることは、成長したい、挑戦したいという想いの土台となった。自分のMapが広がっていくことは視覚的にも自分を認め、自己肯定感を高めることにつながったと考えられる。また、「この学習でこんな力がついた」、「この時こう思っていた」と振り返ることができ、自分の軌跡をたどる上でも大切なものとなった。

めあてと自分の得意なこと、好きなことを枝のようにつなげていきます。



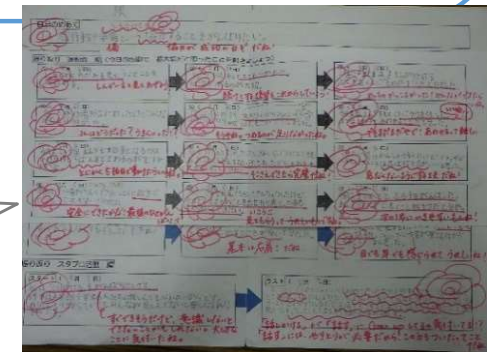
5年 取組② 運動会でのふり返り

【係活動について】「想像以上の学校をつくり上げよう」という目標のもと、新年度のスタートとともに、高学年みんなでチームイワスタとして活動してきた。委員会の活動が中心だったが、運動会は計画委員会で考えた係活動を軸に高学年全体で何ができるかを考えていった。

【集団演技について】今回は感染症予防のため、クラスごとの練習を余儀なくされ、4クラスが一体感を持ってすることが難しい状況があった。そのため、自分のめあてに向かって練習することや成長を記録していくことを大切にしたい。練習の後には必ずふり返りをし、担任がコメントを書き認めるというやり取りを続けた。

【子どもの変容と結果から見えてくること（考察）】学校のために果たしたい自分の役割を考えて活動を始めることで、引っ張ってくれる6年生のもと、したいことや自分を活かすことのできることは何かということをもって取り組むことができた。ふり返りの中で、徐々にやるべきことがはっきりしたり自信がついてきたりする様子が分かり、それをクラスやグループの仲間と共有することで自己を認めるとともに、仲間との結びつきを高めることにもつながった。運動会はみんなが「大成功」であると言ったが、その理由として「自分の役割を果たせたから」「自分やみんながやるべきことをやり遂げたから」などとふり返っており、学校を支える一員であるという意識が身についたことが分かった。

ふり返りの様子。めあてを意識しながら毎日欠かさずにやり取りをしていた。



6年 取組① 異学年との交流

【取組について】1学期には、国語科「聞いて考えを深めよう」の単元の中で1年生との学校探検を設定した。ペアの児童を決め、1年生と知りたい場所を相談して、探検することができた。また、2学期には学校の特別教室を使って、国語科「みんなが楽しく過ごせるために」では、1・6年でのスタンプラリーを実施した。

【子どもの変容】1年生と仲良くなるために、探検先や相手の情報を聞き、調べ、準備することで1年生の思いを共有し、低学年への思いやりをもつことができてきた。

【結果から見えてくること（考察）】1年生とは教室の掃除・授業等で関わる人が多い。低学年への関わり方や声かけは授業以外でも見かけることが増えてきた。最高学年としての姿を見てもらっている意識をもち、学校生活の中でも自分自身で考えて関わることもできた。



6年 取組② イワスタバトン引継式に向けて

【取組について】1学期にはこれまでにない学校をつくるために、5・6年生でイワスタを結成した。委員会活動においても自分たちで考えた委員会活動を結成し、学校づくりに大きく貢献してきた。運動会係活動を経て、最高学年のバトンを引継ぎ、自分が次の世代へ伝えたい姿を考える機会を設けた。

【子どもの変容】イワスタの活動の中では、委員会活動では自分のできることを主体的に考え、5・6年が協力して活動している。6年生が中心となって委員会活動を進めており、5年生の手本となるような姿を見せられるよう意識し、取り組んでいる。

【結果から見えてくること（考察）】5・6年生が運動会の中で全校児童や保護者、地域の人への視点をもちながら、イワスタの一員として運動会を盛り上げる楽しさややりがいを感じることができる取組になっている。さらに1月の合同宿泊学習では、「イワスタバトン引継式」を行う予定をしており、学校をよりよいものにするために最高学年として果たしてきた役割を引き継ぎたいと思える気持ちを積み重ねてきた。



わからないから かんがえる

しっぺこみから おもてろこ

こまったときほど かおをあげ

はなしあうから たのしいんだ

いわきた

